

令和4年度第9回 稲武地域まちづくり推進協議会 議事録

日 時	令和4年12月20日（火曜）午後6時00分～7時00分
会 場	稲武支所2階 団体会議室

1 あいさつ

○大内会長

コロナ感染がじわじわと増えている。感染対策を引き続き、しっかりと行っていく必要がある。本日もよろしく申し上げます。

2 協議事項について

(1) 各団体からの現在の取組、課題などの発表について

①ファームいなぶ

石橋委員；

- ・2018年に、稲武在住農家4名で立ち上げた。それぞれのメンバーの空いた時間を使用して稲武特産の農産物を作る活動を行っている。売上の利益は各メンバーの作業時間に応じて分配している。
- ・活動の狙いとしては、農家の所得増、耕作放棄地の解消、農地の地主への還元、稲武の特産品のPRのためである。農業だけでは生活が難しいと言われていたが、なんとかしていきたい。耕作放棄地の耕転や、草刈りを地主に依頼することで、地主に金銭的な還元ができる仕組みとしている。
- ・現在、トウモロコシ、トマト、メロンを栽培し、道の駅で販売している。トウモロコシについては、根羽村や平谷村よりも間違いなくうまいものができると思い、実際、その通りだと思う。また、当初は収穫だけではなく植え付けなどの農業体験事業を実施したが、なかなか運営が難しいと感じており、現在は収穫体験のみを行っている。
- ・トウモロコシの出荷本数は、全栽培数のうち約25%程度で低いものとなっている。これは、稲武地区内と言えど、各地区で土の性質が異なっているのと、耕作放棄地はすぐに土が流れてしまうことや、獣害被害によるためである。
- ・今後の課題として、気候が毎シーズンで異なっているため、その対応をしていかなければいけない。出荷作業に時間がかかるので、地元のおばさま方の協力を得ていきたいと思う。なお、賃金については、パートさんには時給1,000円を払っているし、メンバーには時給1,200円を払っている。
- ・とにかく続けていくことが大切であると考えている。

<質疑応答>

鈴木委員；トマトを栽培していることを初めて知った。

→石橋委員；西尾園芸のハウスで栽培しているが、トマト単体では赤字である。

大内会長；収益が上がる農作物は何か？トウモロコシは今年何本作ったか？

→石橋委員；やはりトウモロコシである。今年は4万本分を植えたが、約25%の収穫であった。今年は獣害被害がまだましであった。

山田副会長；米は作らないのか？

→石橋委員；将来的にやりたいと考えている。トウモロコシが安定して収益元となり、法人化ができれば米もやりたいが、まだ先の話である。

横田委員；トウモロコシが仮に100%販売できたら、どうなるか？

→石橋委員；毎年、レクサスが買えることになると思う。まずは収穫率40%を目指したい。思うように、実がならなかつたりして難しい。

→上田委員；60%程度を収穫できれば順調だという農家が多いと思う。

古橋久三委員；道の駅でトウモロコシを買ったが、必ずトウモロコシの身が切ってあって、中を見ることができるようになっており、買う方としてはとてもありがたい。

→石橋委員；そのような手間をかけているので、収穫率が下がる要因にもなっている。

②定住促進協議会

古橋久三委員；

- ・空き家情報バンクのホームページへのアクセス数について、松平のアクセス数が、この9月に大きく増えている。これは、松平の定住組織がフェイスブック等のSNSに情報をアップし、ホームページへのリンクを貼ってあったことによる。一方、稲武のページについては、10月のアクセス数で比較すると、令和4年度よりも令和2年度の方が多。これは、令和2年度の9月、10月の物件登録数が各3件であり、例月よりも多かったためと思われる。
- ・11月25日までの令和4年度の空き家紹介に関して、地域面談の実績は5世帯8人、入居実績が3世帯6人、新規のバンク登録実績が4件、ホームページ公表数が6件となっている。また、稲武地区の希望利用者登録数は30世帯となっている、市内が12世帯、県内市外が14世帯、県外が4世帯である。希望形態として、賃貸希望が13世帯、売却希望が10世帯、どちらでもよいが6世帯となっている。
- ・窓口の問合せ状況からは、自分の基盤となる暮らしをすでに持った状態の方による移住希望が多いように感じる。
- ・空き地バンクの問合せはほとんどない状況である。

- ・移住者や真剣に移住を応援している人を集めた「稲武定住・移住促進計画策定ミーティング」を今年度から開催している。11月8日に第1回のミーティングを開催し、定住促進計画の完成、住民への公表・周知につなげていきたい。
- ・今の試算では、稲武地区において、14歳以下の子どもがいる世帯を毎年6世帯、小学生年代の子どもがいる世帯を毎年5世帯、移住を進めることにより、人口減少を食い止めることが可能となる計算になっている。
- ・とにかく空き家がなかなか出てこないことが課題である。

<質疑応答>

古橋真人委員；自分も空き家バンクに登録し、リノベーションを進めた経験から言うと、家主がバンク登録するまでのハードルが高いと感じた。具体的には、権利関係の整理と清掃がとてつもなく大変である。権利関係については、司法書士などの第三者に入ってもらうしかないと思う。清掃については、業者によってかなり金額の幅があった。このため、例えば、定住促進協議会が業者認定して、ここの業者から見積もりを取るとよいよ、ということが言えないか。また、家主が地元にはいない場合はさらに大変になると思われる。

→古橋久三委員；以前、倒壊しそうな家屋があったが、家主に注意喚起しただけではなく、3業者から見積もりを取って、家主に送ったところ、初めて家主が片付けに動いたことがある。

→古橋真人委員；人工林の森づくりでは、団地化として境界杭を入れる。このような制度の空き家版のようなことができないか。

→古橋久三委員；それをやる場合でも、家主の許可が必要になってくる。

鈴木委員；権利関係については、1つ1つ整理することが必要である。福井県ではNPOが中心になって活動しているが、相談機関や定住委員会につなげることをしている。いずれにせよ、熱意と具体的な活動方法についての議論が必要である。

次回は、雇用創出検討委員会、生活交通利用促進委員会が発表する。

3 各種話題提供について

(1) ワーキング部会、各委員からの報告

大内会長；2月4日（土）に、雪み街道を開催することを決定した。汁ー1グランプリの開催内容についてはNPOで検討されている。どんぐりの湯の入館最終時間も延長されると聞いている。また、まちなか商店街への誘導方法についても検討している。

佐藤委員；どんぐりの湯は長寿命化修繕工事が終わり、1月6日（金）にリフレッシュオープンとなる。前日の1月5日（木）には、正午から午後4時までの受付で、地元向けに無料開放を行うので、ぜひお越しください。

山田副会長；商工会女性部で、オリジナルのフリースとパーカーを作成した。ハーバスとまつやで販売している。次回の会議では、ぜひ皆さん着用してほしい。

鈴木委員；木の駅プロジェクトとして、11月から木材の受入れを開始し、3月いっぱいまで行っているが、木材を出してくれる人が非常に少なく心配している。皆さんからもぜひ出してほしい。

横田委員；

- ・12月16日に、商工会館でコワーキングスペースの実証実験として、オープンデーが開催された。参加者から地域の人との交流会をしたいという話があったこともあり、約1時間の座談会をやって、自分が司会をした。約20名の参加があり、トヨタ自動車や豊田通商の社員などが参加した。議題としては、山村条例に関して、自分たちがどういう関わりを持てるか、4グループに分かれてディスカッションをした。

1つの発表内容として、稲武には自然、食、マウンテンバイクなどのアクティビティがあるが、特に子どもたちが行うことができるアクティビティがあるとよいという提案があった。また、能登半島にイカの置き物があって、設置の際は批判的な意見があったが、今となってはインスタ映えするポイントになっているように、そのようなものがあるとよいという話が出ていた。

また、別のグループでは、自分ごととして関わる人を増やすことが大事であるという意見が出た。また、山村の暮らしを知ってもらうためには、表面的な話が多くなるので、解像度を上げるような取組みができるとよいという意見も出された。また、滞在型の取組を増やして、「稲武に釘付けにする」ことができるとよいとの話もあった。

参加者からは、自由な意見を好きに言えて、とても楽しかったとの発言があった。

- ・オープンイナブの取組についてであるが、1月4日に感謝祭として、地元向けのイベントを行いたい。中当神社を拠点に、雪が降っても開催したいと考えている。

4 次回開催日

令和5年1月24日（火曜）午後6時～ at 旧商工会館